



報誌

やすらぎだより

11
月
号

陽気で緑にあふれた生活 それがやすらぎ園です

〒632-0122

奈良県天理市福住町5504番地

Tel 0743-69-2216

Fax 0743-69-2101

Mail yasuragi@crux.ocn.ne.jp

HomePage <http://www.yasuragien.jp>

発行元 広報委員会

発行日 令和元年 11月1日

施設長コラムバックナンバーホームページ掲載しています。

コラム第173号

「風呂場の記憶」

施設長 植田 誠



昔、実家の風呂は木製であった。木製とは言っても、勿論今はやりのヒノキなんかではない古めかしい風呂桶だ。当たり前だが、無頓着なワンタッチ式の電気やガスではなく、薪をくべて沸かしていた。

そういう風呂には‘浮き板’と称する桶底に敷く板があった。直に沸かすので足裏の熱さ対策として敷いてあったようだが、その浮き板はプカプカと浮かぼうとする。体重の軽い幼少の私は、板の中心にうまく立ちながら必死にバランスを取ろうとしていたと記憶する。

心地良い入浴気分とは程遠い、必死さと躍動感あった時代。昔の風呂にはそのような情緒や風情、否、ドラマがあった。そんな頃の刻みは薄れないものだ。

同じく忘れがたい記憶がある。その風呂桶の壁に、このような木札が飾ってあった。

「水と神とは同じこと 心の汚れを洗いきる」

厳格な明治生まれの祖母か信心深い父のいずれかが記したようだが、幼心の私は妙に気になったものだ。その文句ではなく、年期と湿気で薄たされたインク字とすり減ったかまぼこ板の木札には、何かしらの妖気のような怪しげな印象を持つこととなり、やがて入浴の度に自然と注視するようにもなる。

正しい意味は分からずとも、自然とその言葉は胸に響いた。水の大切さとともに、水が持つ力と意味。なんとなく教えられるその言葉に、年月の流れの中で刻み込まれる啓示のようなものとして。

一つの木札には、そんな力があるのだろう。

水害という災いが頻繁している今日、他人事ではない我が事としての対策と、施設のみならず地域としての対応が求められていることは言うまでもない。水は脅威、しかし、水は恵み。

幼き頃に見聞きしたこと。そこには、忘れてはならない教示とヒントが隠されているのかもしれない。



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- 特別養護老人ホーム やすらぎ園
- 在宅サービス事業所
- 在宅介護支援事業所
- 訪問介護事業
- 訪問入浴介護事業
- 短期入所生活介護事業
- 在宅介護支援センター
- 天理市東部地域包括支援センター
- ケアハウス やすらぎ
- 介護予防関連事業
- グループホーム むつみあい
- 住まいの生活支援事業